公益社団法人
東京都理学療法士協会
NO.225 News

2023.2.25 発行
◆発　行　公益社団法人
　東京都理学療法士協会
◆発行人　森島　健
◆編集人　井出　大
医療法人社団永生会
法人本部　地域支援事業部
〒193-0942
八王子市椚田町 583-19
TEL :042-661-4025

政策検討委員会
田中 昌史 氏 参議院議員 繰り上げ当選

令和５年１月２７日（金）に京王プラザホテルにて、東京都理学療法士協会・東京都理学療法士連盟の合同会議を開催いたしました。
久しぶりの対面での会議で日本理学療法士協会の斉藤秀之会長をはじめ、東京都理学療法協会の理事や役員など大勢の先生方にご参加いただきまして、意見交換会を開催いたしました。
トピックスとしましては、１月１８日に参議院議員に繰り上げ当選された田中昌史先生もご出席され、参加した協会員より大きな拍手でお祝いをさせていただきました。
これから理学療法士業界を盛り上げるためにも、田中昌史先生とともにこれからも協会・連盟が手を取り合い歩み進めることが必要だと実感した会になりました。

225 号の目次

政策検討委員会 …… 1
エスカレーターマナーアップ推進委員会 …… 2
地域活性局 ブロック・支部活動 …… 3～17
倫理委員会 …… 17～18
渉外局医療報酬部 …… 19～25
小児福祉部 …… 26～27
研究推進部 …… 28～29
災害対策委員会 …… 30～31
スポーツ局スポーツイベントサポート部 …… 32～37
スポーツ局学校保健部 …… 38～41
スポーツ局国際競技大会・スポーツ理学療法推進部 …… 42～44
会館建設検討委員会 …… 45
広報局機関紙編集部 …… 46～47
編集後記 …… 47

エスカレーターマナーアップ推進委員会

報　告

委員長　齋藤　弘

「エスカレーターの安全な乗り方アイデア 2023」プレゼンテーション大会

文京学院大学経営学部新田都志子教授ゼミエスカレーター研究主催のイベントへ後援させていただいております．３月８日エスカレーターの日には，１都３県の高校生を対象に募集した「エスカレーターの安全な乗り方アイデア 2023」の最終プレゼンテーション大会を開催いたします．当日は、エスカレーター歩行における様々な社会課題解決のアイデアを，10 組の高校生が登壇しプレゼンテーションします．一般観覧もありますので是非ご参加ください．

https://escalator-labo.com/2023/02/16/20230308/

【プレゼンテーション大会実施概要】

開催日時：2023 年３月８日（水）14：00 ～ 17：30（13：30 開場）

会場：文京学院大学 本郷キャンパス　仁愛ホール (東京メトロ南北線「東大前」２番出口隣)

出場者：10 組 25 名

表彰：最優秀賞１組 / 優秀賞２組 / 入賞７組

協賛：東日本旅客鉄道株式会社、株式会社日立ビルシステム、株式会社アサイマーキングシステム

後援：埼玉県、東京地下鉄株式会社、一般社団法人日本エレベーター協会、公益社団法人東京都理学療法士協会

報告者：齋藤　弘（エスカレーターマナーアップ推進委員会　委員長）

福祉のまちづくり研究学会誌への記事掲載

一般社団法人 日本福祉のまちづくり学会が発行する福祉のまちづくり研究（2022,Vol.24,No.2）に「福祉のまちづくり×理学療法士　エスカレーターを歩く人がゼロとなる社会への取り組み」として掲載させていただきました．

掲載は後日 J-stage でも掲載される予定ですのでよろしければお手にお取りください．

報告者

齋藤　弘

（エスカレーターマナーアップ推進委員会　委員長）

報　告

局長　中澤 幹夫

区中央部区南部島しょブロック部

神津島第 20 回健康・福祉まつり

日時：令和 4 年 11 月 12 日
場所：東京都神津島村体育館
参加者：理学療法士 8 名
内容：島民の運動機能評価や健康増進を目的とし、第 20 回健康・福祉まつりにおいて東京都理学療法士協会ブースを設置し参加いたしました。また利島、新島の理学療法士にも参加いただき島間での情報共有や連携強化を図りました。

ブースではバランス、筋力、柔軟性の 3 項目を測定いたしました。バランス測定では 2 ステップテストを評価し、性別ごとの年齢平均と比較し、ランジの運動指導を行いました。筋力測定では 10㎝～ 40㎝台を用いた両脚・片脚の立ち上がりテストと握力を評価し、性別ごとの年齢平均と比較しスクワットを指導いたしました。柔軟性測定では中学生以下の島民を対象に立位での FF Dを測定し、結果に応じてダイナミックストレッチを指導いたしました。

計 90 名の方に参加していただきました。参加者の方からは、「思ったより動きが良くなかった」「運動してみようと思います」とのお声をいただきました。中には「楽しみにしていました」という方もおられ自身の身体機能に対する関心の高さが見受けられました。

本会は理学療法士協会以外にも歯科医師会による歯の検診や、薬局スタッフによる血管年齢測定など多岐に渡る方々が参加されていたのが印象的でした。地域での体力測定を実施する際には、他分野の方とも連携を図り、多くの観点から健康増進を提供していきたいと思いました。

報　告

局長　中澤 幹夫

区西北部ブロック　練馬区支部

学校保健事業活動報告書①

日時：令和４年 11 月 24 日（木）　13:00 ～ 15:00
場所：練馬区立橋戸小学校
対象者：小学校教職員２名、在校生（5 年生）33 名（合計 35 名）
講師：古庄秀明氏（練馬光が丘病院）
アシスタント：理学療法士５名
内容：

練馬区支部では、支部発足直後より学校保健事業に携わらせて頂いています。コロナ禍となり、学校保健事業の実施が難しくなっていましたが、今回、以前より親交のある練馬区立橋戸小学校の養護教諭の先生より、小学生に向けてケガの予防について講演してもらいたいとの依頼を受け実施させて頂きました。

当日は､授業２コマ分を頂き､｢成長期における体の特徴とスポーツ障害の予防」と題して、練馬光が丘病院の古庄秀明氏による講演と実技が実施されました。はじめに理学療法士についての紹介を行い、次に成長期における身体と怪我の話を児童に興味を持ってもらえるようクイズを交えながら説明し、その後ケガの予防についての実技を実施しました。実技については、児童たちに自身の身体を知ってもらうために身体の柔軟性を確認してもらったり、通常のストレッチや効果的なストレッチ方法を実際体験してもらいながら、怪我の予防について理解を深めてもらいました。児童たちは終始興味を持ちながら授業に参加していて、休憩中や授業終了後には私たちのまわりにたくさんの児童が集まってきて、質問をしたり、色々なお話をしてくれたり等、私たち理学療法士に興味を持ってもらえたことを実感できる嬉しい機会にもなりました。今回、コロナ禍ではありましたが、その中で私たちが学校教育の一場面に関わらせて頂き、児童が安全に学校生活を送るための一助になれたのではないかと思います。

練馬区支部では、今後もこのような学校保健事業を継続的に行い、児童や生徒に理学療法士という職業を知って頂き、安心・安全・楽しい学校生活を送るために学校教育の場で理学療法士が活動できる一助となればと思います。

報告者：瀧本知未（慈誠会・練馬高野台病院）

報　告

局長　中澤 幹夫

区西北部ブロック　練馬区支部

学校保健事業活動報告書②

日時：令和 5 年 1 月 14 日 (土)　9:00 ～ 11:00
場所：練馬区立光が丘第八小学校
対象者：小学校教職員 1 名、在校生（5 年生）35 名、保護者 10 名前後　合計 46 名前後
講師：古庄　秀明氏（練馬光が丘病院）
アシスタント：理学療法士 6 名
内容：
練馬区支部では、支部発足当初より学校保健事業に携わらせて頂いております。コロナ禍となり、事業の実施が難しくなっていましたが、今回、以前より親交のある練馬区立光が丘第八小学校の先生より、小学生に向けてケガの予防について講演してもらいたいとの依頼を受け実施させて頂きました。
当日は、在校生 (5 年生) と先生を含め 36 名の参加がありました。また授業公開日ということもあり保護者の方々にもご参加頂いた中で「けがの予防～成長期の体に合わせて～」と題し、練馬光が丘病院の古庄秀明氏による講演と実技が行われました。内容としては、はじめに教室にて理学療法士についての紹介および成長期における身体の特徴とけがの予防についての講演を行いました。その後、体育館に移動してけがの予防についての実技を実施しました。講演では古庄氏の質問に対し挙手する児童や発言する児童が多数おり積極的に参加している様子が伺えました。実技では、しゃがみ込みや前屈等の柔軟性検査と片脚立位によるバランス検査を行った後、適切なストレッチの指導や効果的なストレッチの紹介を行いました。ストレッチの効果に驚く児童が多数おり、こちらも講演と同様に児童たちが積極的に取り組んでいる様子が伺えました。
　今回の公開講座は、授業公開日ということもあり小学校と当協会の繋がりを深く感じられる機会となりました。また、児童たちや教職員の方の反応を踏まえると開催した意義は大きく、児童たちが安全に生活するための一助や今後当協会と地域との交流をより深めていくための良い機会になったと感じております。コロナ渦ではありますが、十分な対策を行ったうえで今後も継続的に都民・区民のために公益性のある事業を行っていけるように努めてまいります。

報告者：中村颯文（慈誠会・練馬高野台病院）

報　告

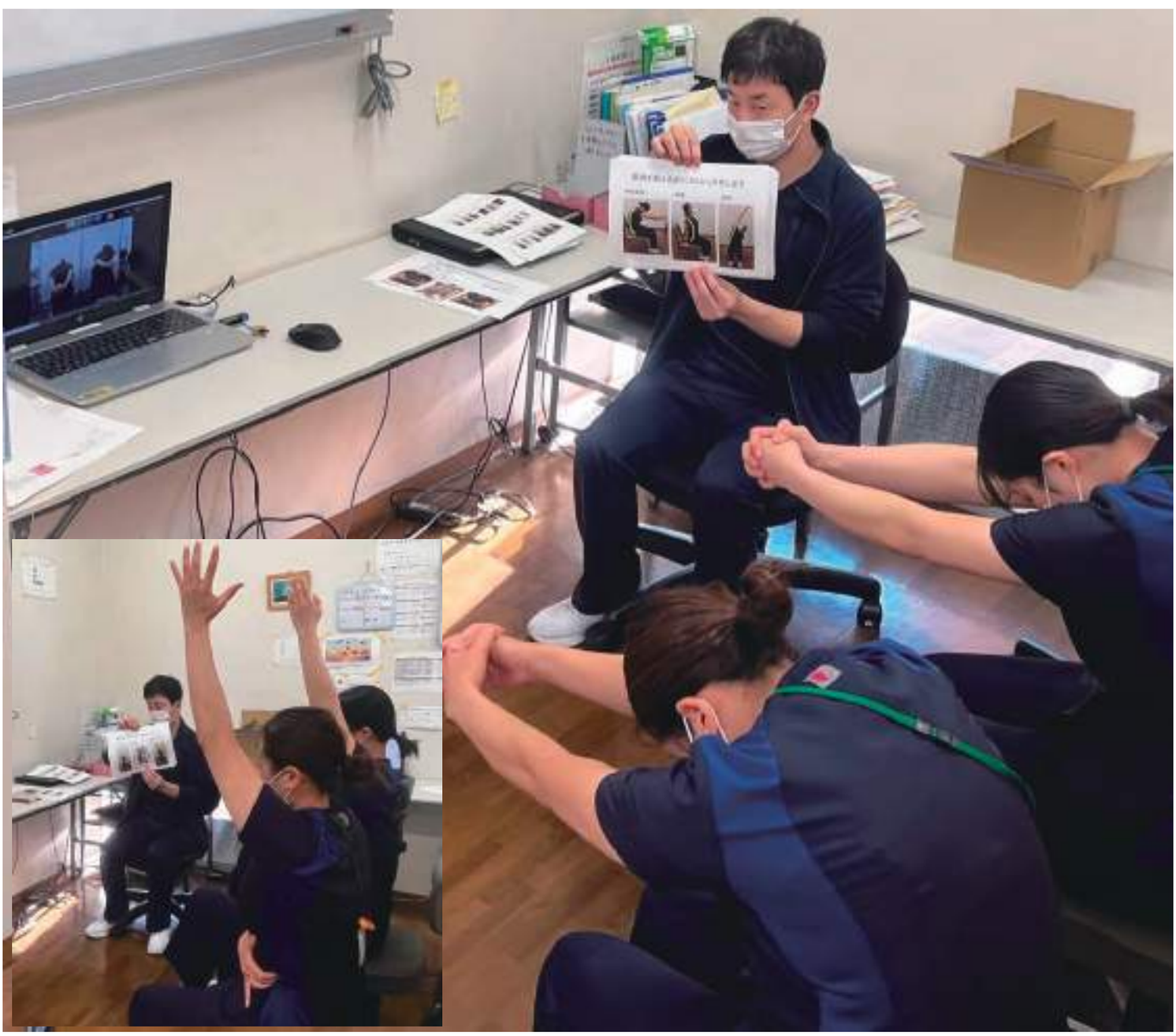
局長　中澤　幹夫

西多摩・南多摩ブロック部羽村市支部

介護予防セミナー

日時：2022 年 12 月 8 日（木）14 時 00 分から 16 時 15 分
参加者：一般都民 14 名、PT 都士会員 3 名
内容：都民を対象とした「介護予防セミナー」をオンラインで開催致しました。「誰もがいずれ通る下半身のお悩み ～ ぽっこりお腹と尿漏れを改善 ～」という講座と「個別相談会」を実施しました。講座では骨盤底筋群や腹横筋などのインナーユニットの役割を解説しながら、実際に骨盤底筋群や腹横筋を収縮する練習を行いました。収縮の感覚が分かりづらい筋肉ですが、画面越しの参加者の皆さんの反応を確認させていただきながら進め、ほとんどの方が収縮する感じが掴めたようでした。効果が出るまでは継続が重要となりますが、参加者の方々からは「頑張って続けてみます」という前向きな感想が聞かれました。本セミナーが初めての Zoom という方も複数いらっしゃいましたが、「これをきっかけに Zoom を使ってみます」という声も聞かれました。

報告者：佐藤文雄（羽村三慶病院）



報　告

局長　中澤　幹夫

区西北部ブロック部　北区支部

東京赤羽ハーフマラソンのサポート＆相談会

日時：2023 年 1 月 15 日（日）
大会名：第 14 回東京・赤羽ハーフマラソン大会
主催者：北区陸上競技協会
場所：北区荒川河川敷
参加者数：2875 名（ブース来場者 136 名）
参加スタッフ：区西北部ブロック部　14 名
内容：

第 11・13 回東京・赤羽ハーフマラソン大会に続き、3 回目のサポートとなりました。前大会よりも参加者が増え、多くの参加者がブースの利用をしてくれました。ブースでは密にならないよう間隔をとり、感染対策をとりながら行いました。サポート内容は大会前の相談、大会後のストレッチやマッサージを提供することが出来ました。

私は、今回初めて東京・赤羽ハーフマラソン大会のサポートに参加さていただきました。
普段、病院で診ている患者様とは身体つきが違った方と多く関わり、大変貴重な体験をさせていただきました。ブース来場者の方から「身体の相談ができてよかった」「またお願いしたい」「ありがとう」と言った温かいお言葉をたくさんいただけてとても嬉しく思いました。北区支部として、これからも地域のスポーツ活動をサポートしていきたいと思います。ご協力頂きました皆様有難う御座いました。

報告者：野崎剛志（大橋病院）

地域活性局　ブロック・支部活動報告

報　告

局長　中澤　幹夫

区西南部・西部ブロック部

区西南部・西部ブロック学術集会

日時：2023 年 2 月 4 日（土）
会場：慶應義塾大学　信濃町キャンパス
内容：
特別講演
「スポーツを通じた健康増進における理学療法士の役割」
講師：スポーツ庁　健康スポーツ課　見供翔 先生
講演 1
「地域におけるウィメンズヘルス領域の役割 - 当院の取組 -」
講師：総合東京病院　久木田詩穂実 先生
講演 2「脳卒中患者における活動量と身体機能の関係性」
講師：東京リハビリテーションセンター世田谷　保母孝多 先生
一般演題　15 演題

今回は会場に参集し対面による開催となり、スポーツ庁の見供翔先生に特別講演をいただきました。区西南部区西部ブロック学術集会としては久しぶりの対面開催でしたが、特に一般演題においては、会場で直接的に質疑応答が出来たことで大変有意義な学術集会になりました。また、同じブロック内の施設間で情報交換もすることができ、改めて学術集会の有用性を認識しました。

報告者：渡辺重人（東京リハビリテーションセンター世田谷）

地域活性局　ブロック・支部活動報告

報　告

局長　中澤　幹夫

区中央部・南部・島しょブロック　大田区支部

「小児リハビリテーション」研修会

テーマ：「どこでも！誰でもできる！小児リハで押さえておくべき評価と運動療法の考え方」日時：2023 年 2 月 1 日（水）19：00 ～ 21：00

会場：Web 開催（Zoom）

講師：楠本　泰士　氏

福島県立医科大学　保健科学部　理学療法学科　准教授

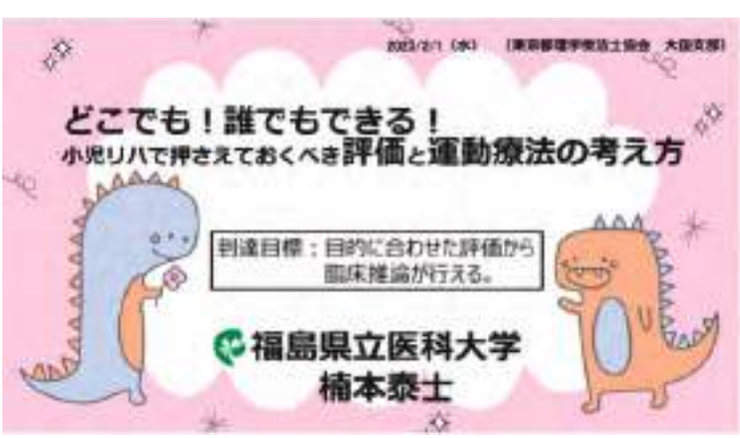
東京リハビリ整形外科クリニック　おおた　非常勤理学療法士

参加者：132 名（理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、看護師等）

内容：

「どこでも！誰でもできる！小児リハで押さえておくべき評価と運動療法の考え方」をテーマに、目的に合わせた評価から臨床推論が行えることを到達目標として WEB での講義を開催しました。支部研修会でしたが、案内を出した直後より全国から多くの申し込みがあり、小児分野に関わっている専門職が日々悩みながら知識技術を高め臨床業務を行っているのだと感じました。今回の研修会では、講義中に随時 ZOOM 内の Q&A 機能を使い参加者の質問に講師が返答していく流れで行いました。また申し込み時や研修後のアンケートでも多数の質問が寄せられていました。今後も小児リハビリテーションの研修会を企画開催していきたいと思います。

報告者：園部恭平（牧田リハビリテーション病院）



地域活性局　ブロック・支部活動報告

報　告

局長　中澤　幹夫

区中央部・南部・島しょブロック　大田区支部

大田区支部介護予防・健康増進に関する研修会

テーマ：大田区における地域の特性を活かした健康増進の戦略と展望

～「人生 100 年を見据えた健康寿命延伸プロジェクト」の知見から～

日時：2022 年 12 月 6 日 (火)　19:00 ～ 20:30

場所：牧田総合病院くすのきホール・Zoom を用いたオンライン (ハイブリット開催)

講師：今村　晴彦 氏

東邦大学 医学部 客員講師 / 長野県立大学大学院 健康栄養科学研究科 准教授

国立がん研究センター 社会と健康研究センター 行動科学研究部 外来研究員

参加者：36 名

内容：

大田区内で行政と大学が共同で進めている区民の健康増進に関する研究について関係者から概説をいただく研修会を開催いたしました。大田区民の健康課題を共有し、区民・地域の健康増進支援について考える機会となりました。実際に地域住民に啓蒙する際の工夫をご提示いただくなど、“今後の地域活動の参考になる”と参加者からは大変好評でした。この研修を機に地域の住民特性や地域課題の理解を深め、日常業務における患者・家族指導や、介護予防・日常生活支援総合事業などの地域活動において、ニーズに即した支援ができるように検討するきっかけとなったのではないかと思います。

報告者：松下 佳介（東急病院）

地域活性局　ブロック・支部活動報告

報　告

局長　中澤　幹夫

区西北部ブロック部

区西北部ブロック部研修会①

日時：令和５年２月９日（木）　18:00 ～ 19:30
形式：オンライン
テーマ：「心不全治療における地域連携に必要なもの～急性期 / 生活期の視点から～」
司会：高橋勇貴氏（東京北医療センター）
講師：矢崎祥一郎先生（練馬光が丘病院）
水瀬光汰先生（辻内科循環器科歯科クリニック）
参加者：理学療法士 43 名
内容：

区西北部ブロック部では例年、会員向けの研修会を年に複数回実施しており、今年度に関しましては「心不全治療における地域連携に必要なもの」と題して、２名の先生に講師を依頼しました。

まず、急性期の視点から練馬光が丘病院の矢崎祥一郎先生にご講演を頂きました。早期リハビリの効果や多職種連携の必要性、また多くの論文を通して心臓リハビリの重要性についてもわかりやすくご説明頂きました。次に、生活期の視点から辻内科循環器科歯科クリニックの水瀬光汰先生にご講演を頂きました。慢性心不全患者の特徴や外来心臓リハビリの効果、実際の症例を通しての治療計画の立て方など興味深い内容ばかりでした。

質疑応答においては、心不全患者に対してどのタイミングでどのような評価を行うべきなのか、患者自身のリハビリに対する意欲を高めるためにはどうしたら良いか、外来心臓リハビリを継続するためにはどうしたら良いかなどの質問があり、両先生からの実際の例やエビデンスも交えたご回答を頂き、より理解を深めることができたかと思います。

区西北部ブロック部では、今後も会員の知識・技術の向上と若手理学療法士の育成を目的とした研修会等を実施していきたいと思います。今後ともよろしくお願い致します。

報告者：古庄秀明（練馬光が丘病院）

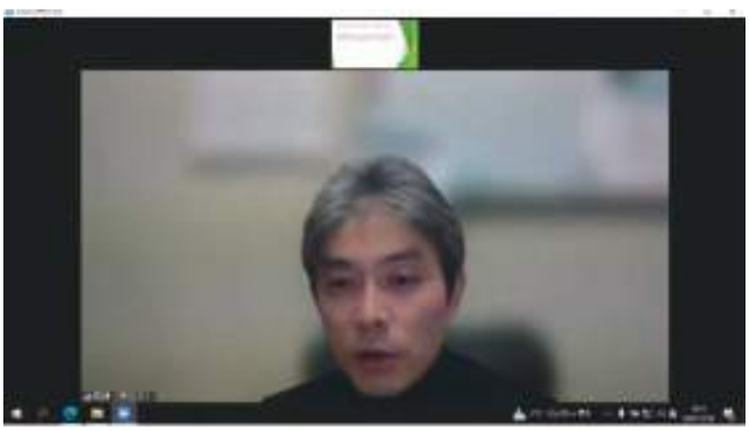
報　告

局長　中澤　幹夫

区西北部ブロック部

区西北部ブロック部研修会② Prat1

テーマ：～コーディネーショントレーニングを学ぼう！～
日時：2022 年 12 月 15 日（木）19：00 ～ 20：30
開催形式：ZOOM（オンライン開催）
参加者数：36 名（他職種含む）
講師：髙橋宏文氏（東京学芸大学　健康スポーツ科学講座　教授）
　　板倉尚子氏（日本女子体育大学　健康管理センター / 東京都理学療法士協会　スポーツ局局長）
内容：



区西北部ブロック部研修会②においては、スポーツに関連した研修を行いました。Part1 では、お二人の先生を講師として招き、オンラインにて研修会を開催しました。
髙橋先生には、運動における身体を調節する力の重要性から説明をして頂き、コーディネーショントレーニングの基礎、７つの能力の説明と具体的な運動例の提示をして頂きました。また、指導において配慮すべき点やポイントなども教えて頂きました。

板倉先生には、理学療法士の地域における学校やスポーツとの関りについての最新の動向をお話して頂きました。スクールトレーナーの制度化に向けての関りや、国のスポーツ政策に理学療法士が関わっていくことの重要性を教えて頂きました。東京都理学療法士協会も文部科学省の土曜学習応援団に登録をし、実際に学校現場との接点を持ち始めている事も教えて頂きました。
区西北部ブロック部内では、区によっては学校との関りも増えてきており、コーディネーショントレーニングを実際に指導している会員もおります。なかなか聞くことの出来ないテーマであったので、貴重な時間になったのではないかと思います。学校や地域のスポーツ現場が理学療法士に求めていることに、しっかりと応えられるようになる必要性を強く感じました。

　本研修にて講義をしてくださいました髙橋先生、板倉先生に感謝と御礼を申し上げます。

報告者：齋藤弘樹（大橋病院）

報　告

局長　中澤　幹夫

区西北部ブロック部

区西北部ブロック部研修会② Prat 2

テーマ：～アジリティートレーニングについて学ぼう！！～
開催日：2023 年 1 月 25 日　19 時～
講師：笹木正悟氏（東京有明医療大学）
補助講師：加藤英人氏（Peak Conditioning）、岩山睦氏（浮間中央病院）、佐久間比呂氏（大橋病院）、野崎剛志氏（大橋病院）
開催形式：ハイブリッド運営 web 参加
協力：酒井医療株式会社
内容：

この度はアジリティートレーニングについての研修会を開催致しましたので報告します。コロナ禍でなければ、対面で開催し、実際の動きを皆様で体験し、動作分析やトレーニング効果の検証などを行う機会になればと思っておりました。開催日が近づく中で感染状況が落ち着かないため、対面形式は中止とし、その代わり、臨場感を少しでも感じて欲しいとの思いから、運営と講師陣のみが会場に集まり、数人で走ったり、切り替え動作をしながら、動きをカメラで多方向から撮影し、LIVE 配信をしました。内容は現場に役立つものばかりで、すぐにでも臨床に生かせるものが多かったと感じております。傷害予防のためには減速動作が大切で、その為には筋力よりも身体の使い方を学習させること、そして実際にトレーニングをその場で実施し、タイムは変わるのか！？短時間のうちに 10m 切り替え走のタイムや反復横跳びの回数が変化していきました。

運営現場は活気に溢れていました。参加者からも臨場感が伝わってきた、息遣い、本気で動いている姿が楽しかったなど大変好評なコメントも頂きました。コロナ禍であっても色々な開催方法があることを学ばせて頂くと共に、現場ですぐにでも利用できるトレーニングまで教えて頂き大変充実した研修会になりました。今回、ご協力頂きましたスポーツ局の皆様、酒井医療株式会社の皆様、そして、このような LIVE 配信企画に対応して下さいました笹木正悟先生、補助講師の先生に感謝致します。

報告者：渡邊祐介（浮間中央病院）

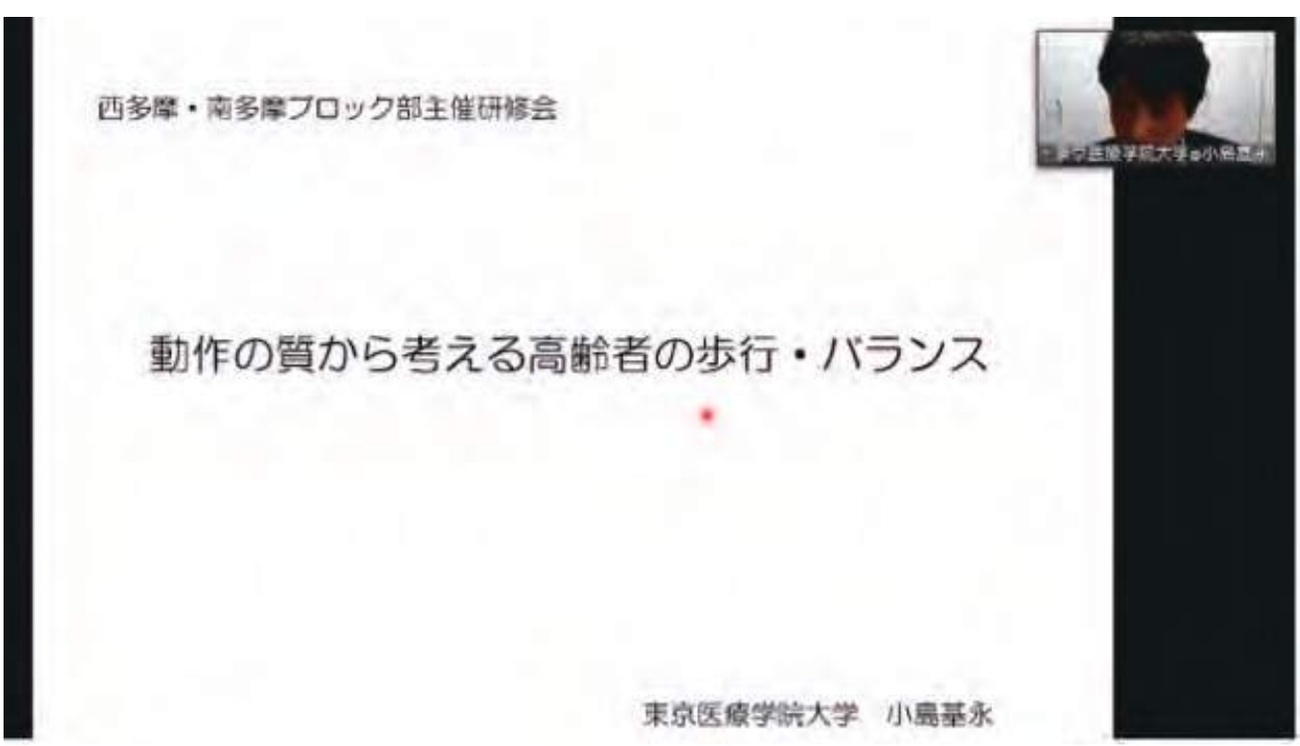
報　告

局長　中澤　幹夫

西多摩・南多摩ブロック部

西多摩・南多摩ブロック研修会

テーマ：「動作の質から考える高齢者の歩行・バランス」
日時：令和４年12月９日（金）19：00～20：30
場所：WEB開催
講師：小島　基永　氏（東京医療学院大学）
参加人数：61名（都士会員52名　他県士会員７名　非会員２名）
内容：
前半は「高齢者の歩行の特徴」を、後半は「加速度情報で捉える高齢者の歩行」をテーマに、様々な研究データから高齢者の歩行についてご教授頂いた。高齢者の転倒の多くは加齢や環境によって生じることが報告されており、転倒の危険因子としては、歩行速度が遅いことが挙げられた。エントロピーの指標を用いた動作解析では、複雑な動作を高周波成分として捉えることができるため、研究結果では、下腿三頭筋の機能低下が転倒と相関があるとされていた。立脚期での下腿三頭筋群の機能維持･向上は転倒予防の観点からも重要であると改めて気付かされた。また、高齢者のマシーンを使ったトレーニングでは、運動がスムースに行えているかどうかをエントロピーで可視化し、運動負荷を客観的に判定するという話も非常に興味深かった。さらに、スマートフォンを使用した評価の可能性も話されており、今後、動作解析がもっと身近なものになるのではないかと感じた。今回の講義では、日々進歩していく医療現場で働くリハビリ専門職にとって、評価技術や知識をアップデートする有意義な機会となった。



報告者：関谷貴広（在宅看護リハビリテーション大地）

報　告

局長　中澤　幹夫

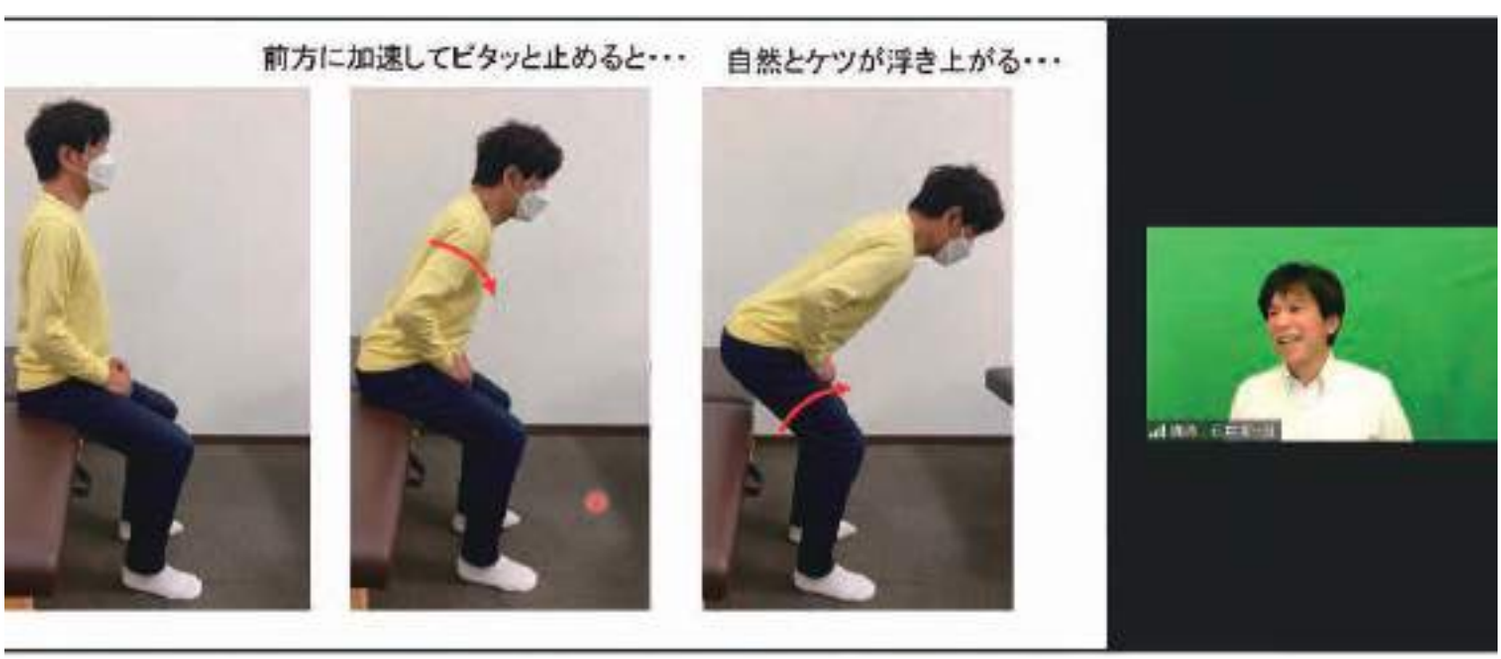
西多摩・南多摩ブロック部

令和４年度町田市支部研修会

日時：2023 年 2 月 9 日 (木)19 時～ 20 時 45 分
開催方法：Zoom オンライン
テーマ：立ち上がりのバイオメカニクスとリハビリテーション
講師：石井慎一郎 氏 (国際医療福祉大学大学院 福祉支援工学分野教授)
参加者：81 名 (都士会員 57 名、他県士会員 22 名、非会員　2 名)
内容：

昨年度の石井先生による「起居動作のバイオメカニクスとリハビリテーション」の研修会に引き続き、今年度も石井先生に「立ち上がりのバイオメカニクスとリハビリテーション」についてご講義を頂きました。先生からは講義冒頭に「立ち上がり動作は生活空間を広げるための重要な動作」との話があり、立ち上がり動作に不可欠な 2 つの重心の動きについて解剖学、運動学の側面からとても丁寧にそして分かりやすい説明をして頂きました。

講義の中では、受講者が実際に身体を動かして重心の移動のしやすさ、しにくさを感じ取る時間があり、立ち上がり動作に必要な動きについてより一層理解を深めることができました。研修終了後のアンケートでは、分かりやすく、明日からの臨床に活かすことが出来る！との声が多く寄せられ、参加者にとって大変有意義な研修会となりました。



報告者：倉地洋輔（株式会社まちリハ）

報　告

局長　中澤　幹夫

区西北部ブロック部
板橋区支部ウィメンズ教室

日時：2022 年 10 月 17 日、11 月 9 日、11 月 21 日、12 月 6 日、12 月 13 日
場所：板橋区児童館（あずさわ児童館、向原児童館、赤塚児童館、志村橋児童館、緑ヶ丘児童館）
参加者：69 名
担当：板橋区支部　理学療法士　各会場 1 名、計 5 名

板橋区児童館 CAP'S において、子育て支援教室として、5 児童館にて講座を開催しました。本講座は、「産後の母親の身体ケア講座～骨盤底筋体操をしよう～」と題して、産後の尿漏れ予防を目的に産前・産後の身体変化についての知識的講義、抱っこ・授乳など育児時の姿勢や骨盤底筋群運動の実技といった、日常的に取り組むことができるような内容を提供しました。乳幼児とともに参加するスタイルであったため、児童館職員に母子のサポートを頂きながら、無事に全講座を終えることができました。

参加者からの感想として、「育児中に運動する機会がなく参加してよかった」、「資料を参考に自宅でもやってみたい」という声が多くあり、また児童館職員からは「抱っこの姿勢についてアドバイスしたいと思う」、「マスク生活の中で深呼吸の大切さと大変さを感じた。」という日常業務でも参考にしたいというような内容の講評をもらいました。

専門職によるウィメンズヘルスに関する取り組みは、地域からの希望もありますし、理学療法士の専門性を活かした活動でもあるため、引き続き取り組めればと思います。

報告者：林依子 (板橋ロイヤルケアセンター)

地域活性局　ブロック・支部活動報告

報　告

局長　中澤　幹夫

区西北部ブロック部

板橋区支部　板橋区女子サッカー　荒川クリエーションカップ

日時：2022 年 12 月 11.18 日
場所：足立区総合スポーツセンター
2022 年 12 月 11.18 日の 2 日間で荒川クリエーションカップが行われました。私たちは、板橋区女子サッカートレセンチームのメディカルスタッフとして大会前後でのウォーミングアップ、クールダウン及び痛みに合わせたテーピングや自主トレーニングの指導などを実施しました。
　思春期の女子への対応のため、理学療法実施以外でのコミュニケーションをしっかりと図らないとスムーズに評価・治療が行えず、コーチや親御さんにも声掛けをしながら実施していきました。普段の病院業務とは違う難しさがあり学びのあるサポートでした。

報告者：武田　俊一 (竹川病院)

倫理委員会

報　告

委員長　齋藤　弘樹

倫理委員会　事業報告

「理学療法士が安心して業務をするために必要な知識～理学療法士賠償責任保険・各種保険について～」

開催日時：令和 5 年 1 月 26 日（火）19：00 ～ 20：15
開催場所：WEB 開催（ZOOM）
参加者：18 名
進行：齋藤弘樹　氏（倫理委員会委員長　大橋病院）
説明者：横田拓海　氏（三井住友海上火災保険株式会社）
　　宮原拓也　氏（損害保険ジャパン株式会社）
　　阿部啓介　氏（丸紅セーフネット株式会社）
内容：
今回の説明会は昨年度に引き続き「理学療法士が安心して業務をするために必要な知識～理学療法士賠償責任保険・各種保険について～」というテーマで 3 人の方をお招きし開催致しました。
会は主に 2 部に分かれており、理学療法士賠償責任保険については自身が加入している保険が業務関係以外にも多くの場面でカバーされている旨の説明もあり、家族を含む自身周辺の保険関係を見直す良い機会であったとともに、実際の保険支払いの対象となった事例を紹介して頂き大変参考になりました。また医療・介護保険関連に関しては、会員や会員の配偶者の親御さんが要介護状態になった際の負担軽減・仕事継続の助けとなるようなプランを紹介して頂きました。
一般的に保険関係は加入後は制度や補償内容を振り返る機会の少ないものでもあることから、改めて自身・家族周辺の状況を見直すことや業務におけるリスクを点検するきっかけとなる良い研修会になったと思われます。

報告者：齊藤悟（東京北医療センター）

報　告

委員長　齋藤　弘樹

倫理委員会研修会　「Professionalism　プロフェッショナリズム」

開催日時：令和５年２月３日（金）19：00～20：30

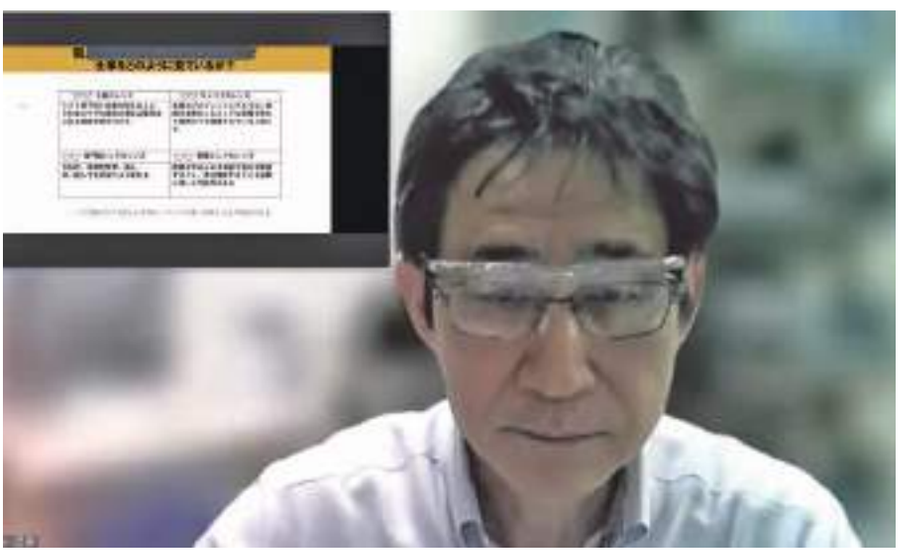
開催場所：WEB 開催（ZOOM）

参加者：21 名

司会：齋藤弘樹　氏（倫理委員会委員長　大橋病院）

講師：村永信吾　氏

（亀田総合病院　リハビリテーション事業管理部　部長）



内容：今回の研修会は、昨年度に引き続き、村永信吾氏をお招きし、「Professionalism　プロフェッショナリズム」～プロフェッショナリズム醸成のための組織づくり～というテーマで研修会を開催致しました。講義の中で、プロフェッショナリズムを有したスタッフを如何に育成するか、そのための組織作りの取り組みについてお話しして頂きました。

理学療法士としてのプロフェッショナリズムを醸成する職場教育のポイントは、各自の価値観に基づいた理学療法サービスのばらつきを抑え、組織の求める教育カリキュラムの標準化、その到達度の確認、カリキュラムの定期更新、さらに指導者の基準とその育成を基本として、理学療法サービスの質向上への継続的改善を習慣とする組織づくりを目指すこととのことでした。また、内的動機づけを高める自己決定論や、組織の生活習慣病対策の講義もして頂き、今後、プロフェッショナルな人材を有する組織作り、職場作りに取り組む上で大変参考になる刺激的な研修会だったと思います。

報告者：中村浩明（福寿会病院）

令和４年度　診療報酬に関する影響調査報告

令和4年度　診療報酬に関する影響調査報告

東京都理学療法士協会会員の所属する全医療施設を対象に「令和4年度診療報酬に関するアンケート調査」を実施させていただきました。以下に詳細を報告致します。

調査期間：2022年9月27日～10月31日　　回答方法：Googleフォームを利用したアンケート形式

広報：東京都理学療法士協会ホームページ掲載、FAX通信、ブロック・支部へメール配信

回答数：166施設　　回答率：14.6%

1. 回答者情報

−1. 所属ブロック（回答施設数）

区中央部・区南部・島しょ	23
区西南部・区西部	31
区西北部	21
区東北部・区東部	34
西多摩・南多摩	31
北多摩	26

−2. 所属施設での立場（施設数割合：%）

施設長	2.4
部長・課(科)長	47.6
係長	14.5
主任	20.5
チームリーダー（などの管理職）	6.6
一般職員	8.4

−3. 経験年数（施設数割合：%）

1～5年目	2.4
6～10年目	6.6
11～15年目	27.1
16～20年目	34.3
21～25年目	15.7
26～30年目	8.4
31年目以上	5.4

2. 回答施設の基本情報

−1. 病床数

病床数	施設数割合(%)
無床	27.1
1～99床	16.9
100～399床	42.2
400～699床	12.0
700～999床	1.2
1000床以上	0.6

−2. 病院機能（施設数割合）

「その他」内訳
訪問看護ステーション 11施設
居宅療養支援診療所 1施設

−3. 施設基準（施設数割合）

＜その他の施設基準＞
がん26.5%、　難病1.8%
認知症1.2%、障害(児)者3.0%

3. リハスタッフ数

−1. スタッフ数平均（人）

令和４年度　診療報酬に関する影響調査報告

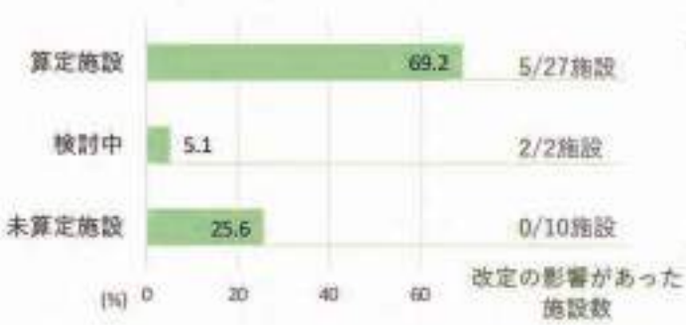
4. 病期機能別リハ処方割合（施設数割合）

その他の機能を有する病床のリハ処方割合

	処方割合	施設数		処方割合	施設数
感染症(コロナ病床を含む)	1～30%	9	緩和ケア	0%	1
	50%	1		1～50%	5
	61～100%	5		51～70%	2
	不明	1	認知症治療病棟	5%	1
小児	5～10%	6		30～60%	2
	20～30%	1	精神科病棟	1～10%	4
周産期	1%	1		30%	1
	60%	1		不明	2

5. 早期離床・リハビリテーション加算（対象39施設）

－1. 算定状況（施設数割合）
改定の影響有無（加算対象治療室見直し）

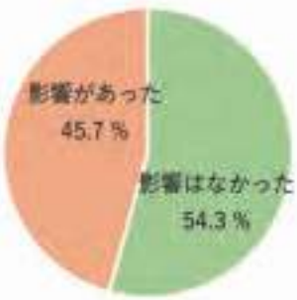


－2. 算定していない理由（施設数割合）回答：12施設（複数回答）

令和４年度　診療報酬に関する影響調査報告

6. 回復期リハビリテーション病棟（対象：46施設）

−1. 入院料の評価体系および要件の見直しの影響



影響があった施設(21施設)
記述回答を集計

重症患者割合の増加	47.6%
在宅復帰率・リハ実績指数の低下	14.3%
入院患者調整に難渋	9.5%
心大血管リハの算定・準備	9.5%
病院機能評価の取得・準備	9.5%
施設基準の変更・準備	9.5%
事務作業の増加	4.8%
データ提出加算の届け出	4.8%

−2. 急性発症した循環器疾患患者の受入れについて

受け入れている	6施設(13%)
検討中	7施設(15.2%)
受け入れていない	33施設(71.7%)

リハ料算定区分
（受入れ施設割合）

心大血管疾患	16.7%
廃用症候群	66.7%
脳血管疾患	16.7%

受入れていない／受け入れることができない理由（複数回答可）N=40施設

該当患者が紹介されない	17.5%
算定要件は満たしているが人員調整がつかない	12.5%
算定要件を満たしていない	62.5%
その他	10%

−3. 「特定機能病院リハビリテーション入院料」算定状況（対象施設：13施設）

算定している	1施設(7.7%)
検討中	1施設(7.7%)
算定していない	11施設(84.6%)

7. 地域包括ケア病棟（対象：44施設）

−1. 地域包括ケア病棟への入棟経緯

	施設数割合
自院内の急性期病棟から	38.6 %
他院の急性期病棟から	22.0 %
自宅からの入院受入れ	24.8 %
介護施設等からの緊急入院受入れ	12.7%

−2. 今年度改定の影響

影響を受けた項目、複数選択可（施設数割合）

入院料	15.9%
在宅復帰率	40.9%
自宅等から入棟した患者割合及び自宅等からの緊急患者の受け入れ数	59.1%
救急体制に係る評価／重症患者割合／自院一般病棟からの転棟割合	29.5%
急性期病床初期加算・在宅患者支援初期加算	4.5%
入退院支援加算Ⅰの届け出	18.2%

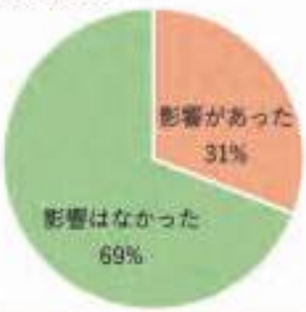
報　告

委員長　　廣瀬　幸子

令和４年度　診療報酬に関する影響調査報告

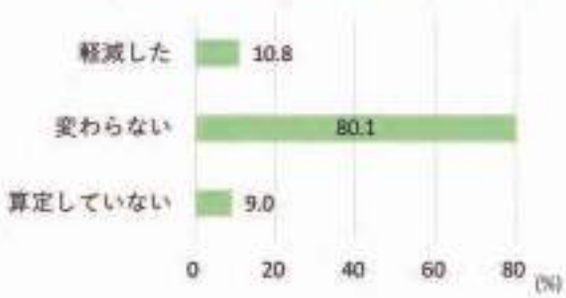
8. 療養病棟について（対象：42施設）

入院基本料に係る経過措置の見直しによる影響
（施設数割合）



9. 実施計画書について

－1. 2回目以降の計画書の署名について、
書類業務の負担は軽減したか（施設数割合）



算定機器（複数回答可）

歩行神経筋刺激装置	7施設
能動型上肢用他動運動訓練装置	4施設
能動型屈伸・屈伸回転運動装置	1施設

－2. 運動量増加機器加算について
（施設数割合）

算定している	6.0%
算定を検討中	1.8%
算定していない	92.2%

算定していない／算定できていない理由（複数回答可）

算定対象機器がない	66.7%
算定要件を満たすことができない	32.7%
機器はあるが費用対効果面（時間がかかる、スタッフ不足など）で算定していない	12.2%
機器使用での治療期間が算定要件を満たさない	5.8%
その他	5.8%

10. 運動器リハビリテーション料の算定要件見直し

「糖尿病足病変」が主病名としてリハ処方が出るか？

対象：施設基準 運動器リハ料　150施設

処方がある　8施設（5.3%）

11. 介護との連携

－1. 算定している加算（複数回答、施設数割合）

目標設定等支援・管理料	65.1%
リハビリテーション計画提供料	32.5%
介護支援等連携指導料	3.6%
介護保険リハ移行支援料	2.4%
どれも算定していない	22.1%
該当施設でない	10.8%

－2. 「目標設定等支援・管理料」を算定していない理由
（回答：16施設、記述を集計）

医師の業務負担	5施設
他職種との連携不足	3施設
費用対効果が低い	2施設
事務業務軽減	2施設
マンパワー不足	1施設
該当者がいない	3施設

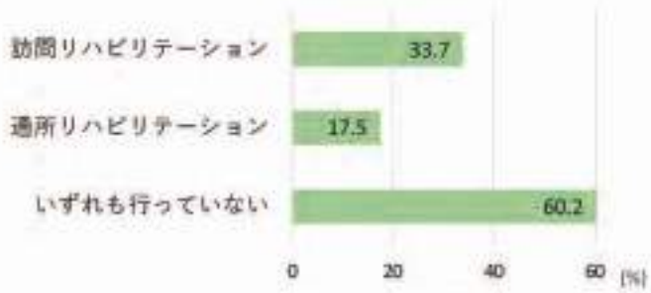
令和４年度　診療報酬に関する影響調査報告

渉外局医療報酬部

−3.「リハビリテーション計画提供料Ⅰ」を算定していない理由（回答：20施設、記述を集計）

該当者が少ない	6施設
算定対象外	4施設
他職種・地域との連携不足	3施設
その他の手段で情報提供	2施設
事務作業軽減	1施設
費用対効果が低い	1施設
リハ情報を提供していない	1施設

−4. みなし指定サービス（複数回答）



−5. 介護保険施設との連携手段（記述を集計）

出現頻度順

＜出現頻度が多いもの＞

・退院前カンファレンス

・報告書作成

・電話連絡

・サービス担当者会議

（図は自由記載文をUserLocal社テキストマイニングツールを使用し解析）

12. 新型コロナウイルス感染症による影響

−1. 新型コロナウイルス陽性患者（偽陽性も含む）の受入れ状況（施設数割合）

−2. 新型コロナウイルス患者の受入れ変化　昨年比（施設数割合）

−3. 新型コロナウイルス患者のリハ介入(処方数)の変化　昨年比（施設数割合）

−4. 新型コロナウイルス患者のリハ介入状況（施設数割合）

報　告

委員長　　廣瀬　幸子

令和４年度　診療報酬に関する影響調査報告

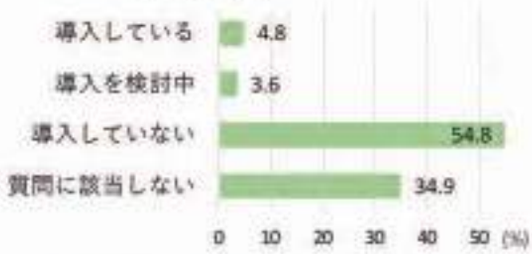
−5. 陽性患者に対するリハ介入の担当者について（対象37施設）

療法士を限定	89.2%
限定していない	10.8%

−6. 陽性患者介入の際のセラピストの「不安」昨年比（対象37施設）

昨年と比較し不安は減った	62.2%
変わらない	32.4%
昨年と比較し不安は増えた	2.7%

−7. ICTなどを利用した遠隔リハの導入状況（施設数割合）

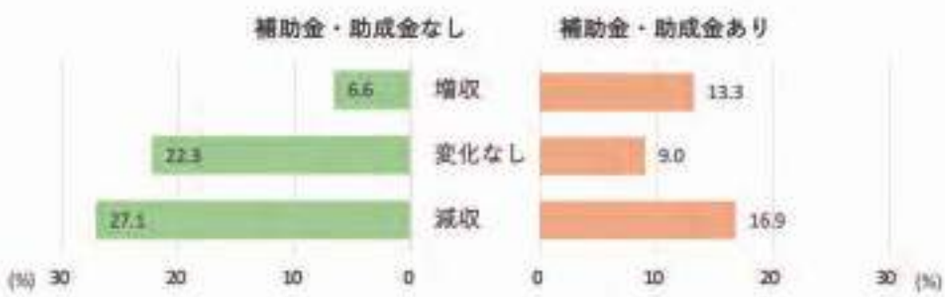


−8. 陽性患者のリハ介入において設問12-7（ICTなどを利用した遠隔リハ）以外の取組みの有無（施設数割合）

取組みをしている	3.6%
検討中	1.8%
取組みをしていない	53.6%
質問に該当しない	40.4%

自主トレ指導の作成	44.4%
チーム介入	22.2%
オンライン見学の導入	22.2%
隔離テントの外からの指導	11.1%

−9. 施設全体への収益の影響　昨年比（施設数割合）



−10. 新型コロナウイルス感染症によるリハ部門が受けた影響　昨年比（施設数割合）

① 収益について

② リハ処方数について

−11. 給与・賞与への影響

③上記以外の影響

コロナ感染による人員不足	9.6%
リハ介入の制限や中止	6.0%
スタッフの精神的負担・意欲低下	3.6%
感染対策やゾーニングによる効率低下	3.6%
リハビリ以外の業務に従事	3.0%
感染対策の備品の増加	3.0%
自粛による患者減少	1.8%

患者の廃用	1.2%
スタッフの退職	0.6%
新卒者の質の低下	0.6%
経費削減	0.6%
勉強会の増加	0.6%
勉強会の制限	0.6%

令和４年度　診療報酬に関する影響調査報告

【まとめ】　　※前年度までの調査結果もホームページで公開しています

回答施設の背景：無床診療所や訪問看護ステーションからの回答が例年より多く、前年度と回答施設の背景は異なる。（よって、前年度までの調査結果と数値を比較する場合は考慮。）

リハスタッフ数：スタッフの人員動向と新型コロナウイルス感染症（以下、COVID－19）による影響を調査した。PTとOTの施設都合での減員は影響を受けている施設が多く、退職者分を募集したが補充できず減員になった施設の半数でも同様に影響を受けていた。

病期機能別リハ処方割合：高度急性期病床のリハ処方割合では施設により割合は異なっていた。急性期病床を有する施設の45％程は61～90％のリハ処方があり例年と変化はなかった。今後も急性期のリハ介入の在り方が課題となっており注視していく項目と考える。

早期離床・リハビリテーション加算：今年度の改定では加算対象となる治療室の見直しがあった。その影響を受けて算定している施設や検討中の施設は39施設中7施設であった。例年と変化はなく、疾患別リハビリテーション料で算定している、専従スタッフの配置などで費用対効果が期待できない点が算定可否の理由として挙がっている。今後も動向を追っていく。

回復期リハビリテーション病棟：今年度改定では入院料の評価体系および要件の見直しがあり、影響があったと回答した施設は45.7％であった。影響のあった具体的な内容としては、重症患者割合の増加(47.6％)、在宅復帰率・リハビリテーション実績指数の低下(14.3％)の順であった。入院患者の調整に難渋している施設の意見もあった。
「急性心筋梗塞、狭心症発作その他急性発症した心大血管疾患または手術後の状態」の患者が入院できるようになったが、受入れている施設はまだ少数であり、施設基準や人員調整の問題があることがわかった。循環器対策基本計画に則ったリハ提供体制の構築は今後も推進が強化されていくため、算定施設のノウハウなど調査を検討したい。

地域包括ケア病棟：回復期リハ病棟同様、改定では入院料の評価体系の見直しがあった。影響を受けた項目としては、自宅等から入棟した患者割合及び自宅等からの緊急患者の受け入れ数(59.1％)、在宅復帰率(40.9％)、救急体制に係る評価／重症患者割合／自院一般病棟からの転棟割合(29.5％)の順で挙がり、見直しに沿う形で、例年と比較し入棟経緯は変化していた。

リハビリテーション実施計画書：改定では署名欄の取扱いの見直し（初回を除き条件を満たせば署名を求めなくて差し支えない）があったが、書類業務の負担が軽減したと回答した施設は少数で、変化していないことがわかった。令和2年度改定で新設された「運動量増加機器加算」を算定している施設を毎年調査しているが、少数であり機器が高額なことや算定要件、費用対効果の面などが算定施設が増えない要因として考えられる。

介護保険との連携：例年と変化はない。連携手段として家族や外部施設スタッフとの情報交換に、どの程度ICT活用が普及しているのかも今後は調査していく。

新型コロナウイルス感染症による影響：本調査は第７波が収束し、東京都内の感染者数が減少してきた時期に実施している。陽性者を受入れている施設では昨年度と比較し受入れが増えていた。新型コロナウイルス患者へのリハ介入（処方）が増加した施設は25.3％、変化がない施設は28.9％であった。陽性者へのリハ介入は何かしらの形で療法士を限定している施設が9割弱であった。セラピストの"不安"が減少していると回答した施設は6割ほどであった。これは2020年からと長期化していることもあり、感染対策に関する知識の充実やリハ効果や実績の報告、ワクチン接種などの影響が示唆される。リハ部門が受けた影響として、65.1％の施設で収益減少、39.2％の施設でリハ処方数減少、感染対策による人員不足やリハサービスの低下、教育面など多岐にわたる影響の解答があった。診療報酬（収益）と感染対策を勘案した対応は今後も長期的に必要である。本調査では、感染症病床のICTを利用した遠隔リハの導入状況を調査したが、今後、ICTを活用した業務の効率化・合理化推進が医療全体に及ぶことは必然であり、今後も継続調査を行っていく。　　以上

本調査にご回答いただいた施設にはこの場を借りて感謝を申しげます。
来年度も継続して診療報酬に関する調査を実施予定です。ご協力よろしくお願い致します。
医療報酬部では、講習会の開催、診療報酬に関する相談・助言事業を行なっております。詳細は東京都理学療法士協会ホームページをご覧ください。

報　告

委員長　　黒川　洋明

「第 10 回東京都小児理学療法セミナー」開催報告

小児福祉部では、毎年、主に理学療法士を対象とした「東京都小児理学療法セミナー」を開催しています。
今回は節目となる第 10 回を 1 月 29 日（日）に Web 開催（Zoom）しました。
「ICF」は 2001 年に WHO で提唱されて約 20 年、「ICF」の枠組みに小児期で重要視する要素を当てはめたフレームワーク「F-words」は Peter Rosenbaum 氏が 2011 年に提唱されて約 10 年が経過しました。今回のセミナーは第 10 回の節目として、子ども達の障がい、その支援方法について過去を振り返り、未来に向けて今の私達を見つめ直す機会にしたいと考え、Peter Rosenbaum 氏を講師としてお迎えしました。

テーマは「子ども達の障がいについてどのように考え、支援していますか？
― 現在の最新知見、動向、エビデンス、そしてその考え方 ―」として講演を依頼しました。
Peter Rosenbaum 氏は GMFM や GMFCS、F-words など小児領域に関わる理学療法士であれば多くの方が知っている評価法やフレームワークの開発、提案をされています。
今回、東京都理学療法士協会として初めての海外講師による講演（同時通訳を「株式会社サイマリンガル」に依頼）、小児福祉部として初の Zoom ウェビナーとなり、409 名（理学療法士 353 名、作業療法士 17 名、言語聴覚士 11 名、理学療法士学生 26 名、看護師 1 名、介護福祉士 1 名）が参加されました。
当日は障がいのある子ども達への支援について「過去を振り返り、現在を見つめ直し、
未来に向けて私達ができること」を講演と部長黒川の司会進行による
複数回のディスカッションを通して情報共有、理解を深める内容となりました。
セミナー終了後の 2 週間の限定配信では「日本語版」「英語版」の 2 種類の動画を
限定公開し、それぞれ 457 回、59 回の再生回数となりました。
子ども達とご家族のより良い未来につながるように次年度以降も引き続き、セミナーを企画開催していきたいと思います。

報告者：黒川洋明（小児福祉部　部長　島田療育センターはちおうじ）

報　告

委員長　　黒川　洋明

東京都理学療法士協会　小児福祉部　主催

第10回 東京都小児理学療法セミナー

子ども達の障がいについて どのように考え、支援していますか？

― 現在の最新知見、動向、エビデンス、そしてその考え方 ―

HOW ARE WE THINKING, TALKING AND ACTING IN CHILDHOOD DISABILITY IN 2022?
WHAT IS NEW, WHAT'S THE EVIDENCE, AND WHY SHOULD I CARE?

2023 **1/29** Sun 9:00-11:30

Peter Rosenbaum
Professor of Pediatrics, McMaster University,
Co-Founder, CanChild Centre for Childhood Disability Research

子ども達の障がいについて、これまでのアプローチは正しい診断を行い
適切な治療とセラピーを選択するという生物医学をもとにしたものでした
この考え方は、善意から来るものではありましたが
残念ながら上手く機能しませんでした

2001年にWHOが採択したICFは我々の分野を
これまでよりも幅広い視点でみるという新しい扉を開き
子どもとその家族のwellbeingに「介入できる観点」が
たくさんあることに気付かせてくれました

このセミナーでは、これらの考え方がどこから来て
今どのように考えられて、どのようなエビデンスに支えられているのか
そして、どこへ向かおうとしているのかを学びたいと思います

みなさまの積極的な参加と活発な議論を期待しています

Peter Rosenbaum 氏とは
脳性まひなどの障がいのある子ども達の
研究機関であるCanChildの共同創設者の一人
ICFの枠組みを小児期で重要視する要素を当てはめた
「F-words」を考案、普及活動を行い、世界30カ国以上で講演
CanChildではGMFCSやGMFMなど様々な評価法を考案

Web 開催
【ZOOM】
・同時通訳あり
・参加者のみ
　後日配信あり

定員：100名

東京都PT・OT・ST会員：2000円
他県士会会員：3000円
非会員：6000円
学生：無料

＊申込方法＊
以下の URL または QR コードからアクセスし
内容・注意事項等をご確認頂いた上で
該当するページからお申し込み下さい。
http://www.pttokyo.net/toshikai/2022/09/19433.html

東京都リハビリテーション専門職協会　後援

研修推進部からのお知らせ
令和５年度研究助成　応募要領

1．研究課題

理学療法関連分野の進歩・発展に貢献する独創的な研究を対象とします。

2．助成の概要

①　応募資格

イ．理学療法士個人またはグループ、医療従事者、一般都民を対象とします。

ロ．大学院生でも応募は可能です。申込書に所属・専攻等を記載ください。

ハ．助成の決定・交付は、所属機関の倫理審査委員会の承認を条件とします。

②　助成内容

1）研究機器貸し出し

イ. 東京都理学療法士会が所有する研究機器について､単年度で無償貸し出しをいたします。

ロ. 令和５年度貸し出し可能機器　*各機器の詳細は各社ホームページ等をご参照ください。

1）ハンドヘルドダイナモメータ（アニマ社製ミュータス F-1）× 3 台

2）デジタルインクリノメータ（デュアラー IQ インクリノメータ）× 4 台

3）全身反応時間計測システム（マルチタイムカウンタ・多色刺激呈示器・反応キーボックス・マットスイッチ，DKH 社）× 1 セット

4）組織硬度計・圧痛計・徒手筋力計（伊藤超短波）× 1 セット

ハ．複数種類・複数台の申請は可能ですが、応募状況・研究内容等を勘案し貸し出し機器および台数を決定いたします。

ニ．他の応募者と貸し出し機器が重複する場合には、選考会議での評価が高い順に貸し出しを決定いたします。

ホ．研究期間中、貸し出した機器を別の研究のために使用することはできません。病院等診療業務でこれを使用することもできません。

2）助成金額

イ．1 件 10 万円を上限とし、採択件数は総計 50 万円までとします。

ロ．研究機器の貸し出しを希望しない場合、助成金のみの申請も可能です。

③　助成金使途

イ．研究に要する機器備品費，消耗品費、対象者交通費、通信運搬費、印刷・複写費のみとします。該当しない項目の計上は減額対象となります。

ロ．旅費および研究補助者への謝金、10 万円以上の機器購入への充当に使用することはできません。

ハ．コンピュータ（タブレット PC を含む）の購入は、研究計画上必要と認められた場合に限り可能とします。単に測定データの入力や論文作成等で使用する場合には認められません。

④　助成期間

年度末を原則とします。ただし、貸し出した研究機器につきましては研究の終了後速やかにご返却ください。

⑤　助成決定時の義務・条件

イ．選考により助成対象者となられた場合は、所属機関の倫理審査委員会の承認を証明する書類と、所定の助成誓約書を提出していただきます。

ロ．上記 2 点の書類を確認後、助成交付をいたします。

ハ．助成誓約書の提出をもって、当協会への研究経過・完了の報告および貸し出し機器の返却等の義務を負っていただくことになります。

ニ．研究の終了後、1 年以内に研究成果を理学療法関連学会に報告し、論文化の後に学術誌へ投稿してください。原則として学会報告は、東京都理学療法学術大会または連合学会各領域、関東甲信越ブロック理学療法士学会のいずれか、論文投稿先は『理学療法東京』または理学療法関連学会誌としてください。

⑥　研究安全倫理審査委員会の承認

イ．所属機関（筆頭研究者または共同研究者）の倫理審査委員会の承認は必ず行ってください。所属機関に委員会がない場合、学会･協会等の外部機関での承認でもかまいません。

ロ．倫理審査委員会の承認が受けられない場合、採択が取り消しとなる場合があります。

3．選考方法

選考会議において慎重に審議の上、学際的に貢献し得る研究を選考し、理事会において助成対象者を決定します。選考はマスキング審査で行います。

4．応募期間

令和５年４月１日（土）～５月５日（金）

5．応募方法

応募要領を熟読の上、当協会ホームページから申込書（３月下旬公開予定）をダウンロードして必要事項を記入し、電子メールに Word ファイルを添付のうえ下記までご提出ください。

6．申込書提出先および問い合せ先

〒 160-8582　東京都新宿区信濃町 35 番地　慶應義塾大学病院リハビリテーション科内

東京都理学療法士協会学術局研究推進部　三森由香子

Tel/FAX.03-3354-1358　E-mail: tpta.r.s@gmail.com

委員長　松本　浩一

第 17 回災害時安否確認システム予行演習のお知らせ

東京都理学療法士協会では、東京都作業療法士会並びに東京都言語聴覚士会と合同で毎年 2 回実施しております災害時安否確認システム予行演習を下記内容で実施致します。平時からの有事の備えが重要と考えております。皆様、奮ってご参加いただければ幸いです。

【災害時安否確認システム】
概　要：　Google フォームを使用した安否確認情報登録
目　的：　大規模災害等発災時における会員の安否状況と各地域の被災状況を確認し災害支援に役立てる

【災害時安否確認システム予行演習】
日　時：　2023 年 3 月 11 日（土）～ 2023 年 3 月 18 日（土）
対　象：　理学療法士・作業療法士・言語聴覚士
方　法：　URL 又は QR コードから Google フォームにアクセスし情報を登録して下さい
備　考：　東京都作業療法士会・東京都言語聴覚士会との合同開催となります
　　施設単位ではなく個人単位での参加（登録）となりますので注意ください

＜ URL ＞
https://forms.gle/g19Lew9L34KAuGjd9

＜ QR コード＞

【お問合せ先】
医療法人財団健貢会　総合東京病院診療技術部　リハビリテーション科　担当：松本浩一
TEL: 03-3387-5119（直通）　／　E-mail: matsumotokoichi.biz@gmail.com

＜災害時安否確認システム予行演習参加方法＞　★所要時間最短 1 分未満

① URL 又は QR コードから Google フォームにアクセスする

② 氏名や被害状況などの必要情報を記載・選択する

③ 送信（登録）して終了です

スポーツ局スポーツイベントサポート部

報　告

局長　板倉　尚子

【活動報告】フェンシング大会会場サポート

スポーツイベントサポート部では 11 月以降も東京都フェンシング協会様、日本フェンシング協会様、日本学生フェンシング連合様、関東学生フェンシング連盟様より御依頼を受け、フェンシング競技大会の会場サポート活動を行っております。以下に概要の報告をさせて頂きます。

・東京都フェンシング協会主催大会

滝口杯東京都ベテランフェンサーズ大会　（11 月 23 日）
東京都シニア女子エペ個人選手権大会　（11 月 26 日）
JOC ジュニアオリンピックカップ東京都予選（11 月 27 日）
会場：大蔵第二運動場体育館、参加者 259 名（対応 11 件）、
参加理学療法士 6 名

・関東学生フェンシング連合主催大会
第 21 回北岡杯フェンシング大会（12 月 3 日）
会場：大蔵第二運動場体育館、参加者９７名（対応 4 件）
参加理学療法士 2 名

・日本フェンシング協会主催大会
2022 高円宮フェンシングワールドカップ東京大会（12 月 10 日～ 12 月 12 日）
JOC ジュニアオリンピックカップ　（1 月 5 日～ 1 月 8 日）
会場：駒沢オリンピック公園体育館屋内球技場、参加者 1616 名（対応 57 件）、参加理学療法士１４名

・豆フェンサー Ryo 杯（1 月 3 日）
MINATO OPEN FENCING 2023（1 月 28 日、29 日）
会場：江戸川区総合体育館、港区スポーツセンター、参加者 463 名（対応 11 件）、参加理学療法士 6 名

12 月には 3 年ぶりに高円宮フェンシングワールドカップが日本で開催され、会場サポートに入らせて頂く機会を得ました。各国から世界トップレベルの選手が来日し、レベルの高い試合が行われておりました。団体戦では日本チームが決勝戦まで勝ち進み、準優勝の結果を収めていました。
今年度予定されていた大会が概ね終了し大きな事故なく活動を終えることが出来ました。年間で 60 日以上の大会に帯同させて頂き、延べ 120 名以上の理学療法士の方々にご協力を頂きました。この場を借りてお礼を申し上げます。
来年度もスポーツイベントサポート部では多くのフェンシング大会で活動する予定です。来年度も大きな事故なくサポートが行えるように活動して参ります。ご協力の程宜しくお願い致します。

報告者：スポーツ局スポーツイベントサポート部
生井真樹（世田谷人工関節・脊椎クリニック）

報　告

局長　板倉 尚子

【活動報告】第７回パラスポーツフェスタえどがわサポート

日　時：2022 年 11 月 19 日 (土)
場　所：江戸川区スポーツセンター
来場者：約 500 名
相談件数：6 件
参加理学療法士数：2 名

江戸川区では、誰でもパラスポーツを無料で体験できるイベントとして「パラスポーツフェスタえどがわ」開催されておりました。７回目となる今年度から、従来の体験コーナーに加え、障害の有無を問わず来場者が自身の身体について知るきっかけづくり、または運動実施に結びつくような目的で「理学療法士による運動相談コーナー」を設けることとなり、依頼を受けました。

相談者の方々は、痛みや体の悩み・運動方法、障害への向き合い方など、多岐にわたるものでした。また相談者以外にも障害がある来場者の方々にお声掛けし、どんなスポーツを楽しめるのか提案・サポートし、各ブースで体験していただくことができました。さらに、体験に留まらず、お住まいの地域で継続できる場所の提案など、各ブースの方々と江戸川区の方々で連携を取り、提案することができ、スポーツを通して共生社会が築かれる、素晴らしいイベントとなりました。今後も理学療法士として地域の方々の社会活動や共生社会がさらに広がるよう、支援して行ければと思います。

報告者：スポーツ局　スポーツイベントサポート部　鈴木真治（森山ケアセンター）

【活動報告】EDORIKU パラ陸上教室サポート

日　程：2022 年 11 月 26 日
会　場：江戸川区陸上競技場
参加者：7 名
参加理学療法士：5 名

江戸川区の車いす教室は普段、車いすを利用している方を対象としたパラ陸上教室です。2022 年度も全 6 回のサポートとなり、今回で今年度最後となりました。参加者はスポーツを楽しむこと、体力向上の目的以外にも大会出場を目指している方もいます。教室の中で、私たちは、レーサー車いすの調節や移乗介助、シーティング、準備体操及び整理体操、体力測定など教室運営のサポート、走行介助など、参加者の皆様が安心して楽しく参加して頂けるようサポートしております。
これからも参加者が安心、安全にスポーツを通して体を動かす楽しさを伝えていけるよう今後もサポートを続けていけたらと思います。貴重なサポートの機会を有難う御座いました。

報告者：岩山　睦 (博栄会 浮間中央病院)

スポーツ局スポーツイベントサポート部

報　告

局長　板倉 尚子

【活動報告】2022 オリンピックデーラン板橋大会サポート

開催日：2022 年 11 月 20 日（日）
開催場所：あずさわスポーツフィールド（板橋区）
参加都民：405 名
参加理学療法士：26 名

オリンピックデーランはオリンピックデーを記念して全世界で行われているオリンピックイベントの 1 つです。東京都では板橋区が唯一市区町村として同イベントを開催しています。オリンピアンとジョギング・ウォーキング、様々なスポーツを一緒に行うことで、スポーツの楽しさを感じ、オリンピアンと参加者が触れ合えることを目的としています。今回、2019 年以来 3 年ぶりのイベント開催となり、板橋区スポーツ振興課及び日本オリンピック委員会より
（公社）東京都理学療法士協会スポーツ局へご依頼があり、サポートを実施しました。
参加都民は 405 名、参加オリンピアンは 11 名でした。サポート内容は①理学療法ブースの設立・運営②オリンピアンのアテンド③オリンピック競技体験補助でした。①理学療法ブースは未就学のお子様を含む 100 名の方へお越しいただき、Inbody 機器による体組成分析、MIZUNO 社製足長計測機器を用いての足部形状とシューズの相談、ジョギング・ウォーキング前のウォーミングアップ（体操）を実施しました。②アテンドはオリンピアンと都民と共にあずさわスポーツフィールドのランニングコースをジョギング・ウォーキングをしてオリンピアンの活動補助を行いました。③オリンピック競技体験補助はサッカーを中心にオリンピアンと共に子供たちのサッカー体験のサポートをしました。参加者は未就学児・小学生と親御様が多く、オリンピアンと笑顔でスポーツを一緒に楽しんでいました。世界のトップレベルで必死に戦い活躍することも、イベントや地域スポーツを楽しむこともどちらもスポーツであり、改めてスポーツの持つ価値を感じることが出来ました。
東京 2020 オリンピック大会では多くの都士会員がメディカルサポートを経験しました。オリンピック大会を経験した理学療法士が、こうして地域のスポーツイベントをサポートし、スポーツの持つ楽しさや価値を発信し、広く都民へ貢献できればと願います。

報告者：スポーツ局　北田利弘 (竹川病院)

スポーツ局スポーツイベントサポート部

報　告

局長　板倉 尚子

【活動報告】杉並区障がい者スポーツ支援活動
「すぎなみスポーツアカデミー」「ユニバーサルタイム」

日　時：2022 年 12 月 18 日、2023 年 1 月 14 日、21 日、2 月 11 日

会　場：永福体育館、都立永福学園、大宮前体育館、高井戸地域区民センター

理学療法士：８名

参加者：63 名

すぎなみスポーツアカデミーでは「はじめの一歩」「ボッチャ教室」の障がい者スポーツ教室において理学療法士がサポート活動を行なっております。

「はじめの一歩」では元日本体育大学の野村一路先生にご教授頂きながら杉並区主催のわいわいスポーツ教室で、ボランティアの方々と障がい者スポーツ教室の講師として参加致しました。また、講師だけでなく肢体不自由の方のサポートに入り、体の動かし方等のアドバイスを行いました。

「ボッチャ教室」では教室運営に加え、アイスブレイクや準備・整理体操、試合進行や審判までと幅広く活動を行なっております。また、障害度合いに合わせてランプの仕様や投球位置の修正などの参加者のサポートも行なっております。

「はじめの一歩」「ボッチャ教室」は小児から成人と年齢は幅広く、肢体不自由の方だけでなく知的障害の方や視覚障害・聴覚障害と障害も幅広い方が参加され、理学療法士の役割が非常に活かされる場となっております。障がい者スポーツに興味をお持ち方は、ぜひスポーツ局までご連絡下さい。

また、昨年の 10 月 23 日に行われた第 1 回ユニバーサルタイムが杉並区の広報誌「広報すぎなみ」に掲載されました。理学療法士についてのお言葉も掲載され大変嬉しく思います。第 2 回は 3 月 1 日に行われ、来年度は全 12 回が予定されており、杉並区で益々、障がい者支援が進んでおります。杉並区民の皆様に貢献出来るよう、今後もサポート支援に力を入れて行きます。

2 | Suginami 広報すぎなみ | No.2345 令和5年(2023年)1月15日

障害のある方もない方も！

誰もがスポーツに親しめるまちを目指して ～スポーツをもっと身近に

区は、地域共生社会づくりの視点に立ったスポーツ・運動のさらなる推進を図るため、障害当事者や関係団体等による「障害者スポーツネットワーク」を4年6月に立ち上げました。以降、そのメンバーにより、より多くの障害のある方が身近な体育施設で、気軽にスポーツ・運動に親しめるよう、事業内容や支援体制、施設・設備の在り方等を協議・検討し、「ユニバーサルタイム」を試行的に実施しています。いずれは、障害の有無にかかわらず、同じ施設を同じ時間に利用できるような環境づくりを目指しています。

――問い合わせは、スポーツ振興課へ。

▲ユニバーサルタイム

＼体を動かすって気持ちいい！／

ユニバーサルタイムを始めました！

障害のある方のスポーツ・運動のきっかけづくりの場として、軽い運動やウオーキング、ボール遊びなどのプログラムを実施しています。

将来的には各体育施設において、このような場を設け、障害のある方が日常的・継続的に体育施設を利用できるよう取り組んでいく予定です。

■ 好きなプログラムを選んで自由にスポーツ・運動ができます！
■ 事前申し込み不要、入退場自由、見学のみもOK！
■ スポーツ・運動を安心して楽しくできるよう、理学療法士やサポーターなどがお手伝いします！

CHECK 誘導サポーター

参加者が安心して参加できるよう、最寄り駅等と体育施設の往来の道案内をします（事前申込制）。

初めて行く場所でも安心！

参加者の声

安心して参加することができました

理学療法士や、実技・誘導をサポートしてくれる人たちがいて、体制が充実していました。バランスボールやウオーキングなど、初めて体験することや普段できないことを安心して楽しむことができました。

軽い運動

軽い運動や体の相談、ダンスができます。

初めてバランスボールに乗りました！

バランスボールを使った遊び

背中の硬さを柔らか運動を教えてもらいました！

ヨガも楽しめる！

重度障害者は体を揺らすことも運動です！

エアートランポリンを使った遊び

理学療法士が歩き方や走り方など、正しい体の使い方を教えます。

自然なかたちで歩くことができました！

ウオーキング・ランニング

実技サポーターが一緒だから安心！

出典：杉並区広報すぎなみ 1 月 15 日号

報告者：スポーツ局スポーツイベントサポート部　西條攻（三宿病院）

【活動報告】青山学院大学フェンシング部サポート

日　時：2022 年 11 月 26 日、12 月 10 日、12 月 17 日
　　2023 年 1 月 7 日（計 4 回）

参加選手数：延べ 75 名
参加理学療法士：延べ 13 名

年間を通して青山学院大学フェンシング部をサポートしておりますが、今回よりトレーニング内容にコーディネーショントレーニングを追加し実施しております。コーディネーション能力とはある運動を行う際に、それが上手くいくよう神経および筋が調節する能力を言います。よって様々な運動を行い身体の使い方を多くトレーニングすることで選手の運動能力を向上することを目的として実施しています。
監督から徐々に積み上げてきたトレーニング結果を徐々にパフォーマンスに生かしたいと要望があるため、多くの身体の使い方を取得することで攻撃のバリエーションが増えるよう継続して取り組んでいます。今後も引き続き、選手の競技力向上のために取り組んでいきたいと思います。

報告者：スポーツ局スポーツイベントサポート部　山田祐太朗（元気ジム大泉学園）

報　告

局長　板倉 尚子

「土曜学習応援団　安全教育（防災サイコロ教育）」

①目黒区立宮前小学校
日時：2022 年 11 月 25 日（金）0920 ～ 1045 時 (2 校時、3 校時)
対象：宮前小学校 4 年 1 組 25 名、4 年 2 組 26 名、計 51 名
②豊島区立清和小学校
日時：2022 年 12 月 3 日（土）0835 ～ 1110 時 (1 校時、2 校時、3 校時)
対象：清和小学校 4 年生 57 名、5 年生 66 名、6 年生 56 名、計 179 名
③目黒区立宮前小学校
日時：2023 年 1 月 10 日 (火）1330 ～ 1430 時
対象：教員等 20 名
講　　師：佐伯　潤先生（スポーツ局外部委員）
教　　官：板倉尚子（日本女子体育大学健康管理センター）鈴木享之（長汐病院）
　　渡邊祐介（浮間中央病院）森本孝則（Physical care room T）

概　　要：
文部科学省「土曜学習応援団」への登録により安全教育に関し、①、③目黒区立宮前小学校と②豊島区立清和小学校より「防災サイコロ授業」の依頼があったので報告します。
内 容：
対象は、上記に記す小学校 4 年生以上の全 270 人を対象として行いました。公開授業と言うこともあり保護者の観覧もありました。「東日本大震災において、岩手、宮城、福島 3 県で亡くなった園児・児童・生徒 533 名のうち、学校管理下での犠牲は 89 名程度に限られ、自宅や帰宅途中で犠牲になった子どもが多い」という事実を基に佐伯先生より「子どもが 1 人でいる状況での災害発生に備えた安全な行動の学習機会の提供がありました。
今回も児童だけでなく、保護者や教諭の皆さまから災害時の危険な物・場所、集合場所・連絡手段の確認など多くの気付きがあったとご意見を頂きましたので、今後も引き続き、災害時に転倒等、怪我をしないための安全教育に、学校保健部一同力を注いでいきたいと思います。

報告者：
スポーツ局学校保健部
鈴木享之（長汐病院）

報　告

局長　板倉 尚子

【活動報告】 土曜学習応援団 「渋谷区立富谷小学校　ストレッチ授業」

日時：2023 年 2 月 18 日（土）　4 校時

会場：渋谷区立富谷小学校　体育館

対象：2 年生

講師：齋藤弘樹

アシスタント：板倉尚子（日本女子体育大学健康管理センター）

鈴木享之（長汐病院）

内容：学校保健部は、文部科学省の土曜学習応援団に登録をしており、学校からの要請にて出前授業の講師派遣などを行っております。今回は渋谷区立富谷小学校からの依頼を受け、授業を実施しました。学校からの相談は、「子供たちに運動をたくさんしてもらいたいが、ケガの心配もあるので、予防ができるストレッチを教えてもらいたい」という内容でした。授業では、まずは子供たちと一緒にケガの種類や原因について考えました。その後、ストレッチの目的・効果についてお話をし、どの筋肉がストレッチ出来るのかを考えて、実際にストレッチを行うという進行で授業を行いました。子供たちからは、「予想と違った筋肉がのびている」、「ストレッチすると気持ちいい」などの意見を聞くことができました。参加された保護者向けにもストレッチの資料を用意し、自宅で取り組んでもらえるようにしました。

今後も学校保健部の活動を通して、子供たちの健康維持・促進に向けた取り組みを行っていきたいと思います。

報告者：齋藤弘樹（大橋病院）

報　告

局長　板倉 尚子

【活動報告】「神田女学園中学校高等学校　災害対応救助訓練」

日　　時：2023 年 1 月 20 日（金）9：00 ～ 12：00
会　　場：神田女学園中学校高等学校
対　　象：高校 3 年生 70 名
講　　師：佐伯　潤先生（スポーツ局外部委員）
教　　官：板倉尚子（日本女子体育大学健康管理センター）
　　鈴木享之（長汐病院）　　渡邊祐介（浮間中央病院）
補助教官：岩山　睦（浮間中央病院）　江野澤優（南多摩病院）

概　　要：
学校保健部は、安全教育として運動指導・障害予防そして防災教育（自助・共助の意識付けそして二次災害の減災）を行っており、文部科学省の「土曜学習応援団」への登録もしている。そこでは、安全教育として「防災サイコロの授業」を登録しており、全国からの依頼に対応している。今回は、神田女学園中学校高等学校様より特別授業として災害対応救助訓練の依頼を受けたため、実施してきました。
内　　容：
対象は、高校 3 年生 70 人の生徒でした。前半は佐伯先生の講義により災害対応に資する知識・技術を学び、後半は搬送法の実技展示や災害発生時を想定した救助演習を行い、共助を行うための知識を学び、具体的な技術を体験して頂きました。参加者の評価として、教官並びに補助教官に IC レコーダーを装着し各班や個人の評価を録音したものや訓練後のアンケートから、後日一人一人に個人成績票といった形でフィードバックを行いました。皆さん真剣に訓練に取り組んでくださり、生徒からも共助を行う上での心構えが知れたなどと、嬉しいコメントを頂くことができました。
昨今においては救急需要が高まり緊急車両の到着時間が延長しております。さらに今後高齢社会が加速することで、災害発生時では公助が追い付かなくなると言われています。その時に、災害に関する知識を身に着けており、自助・共助がしっかりと行えることが重要な安全教育となってきます。
理学療法士として、災害時における障害予防（転倒しない体の使い方等）や安全な移動・搬送手段などを引き続き指導していき、自助・共助の意識付けそして二次災害の減災に寄与できるよう活動を行って参ります。

報告者：スポーツ局　江野澤優（南多摩病院）

【活動報告】「豊島区立清和小学校におけるコーディネーショントレーニング授業（土曜公開授業）

日時：2023 年 1 月 21 日（土）

場所：豊島区立清和小学校　体育館

対象：1 年生　60 名　2 年生　70 名　3 年生　53 名

講師：齋藤弘樹（大橋病院）　佐藤奈つ美（大橋病院）　山田祐太朗

内容：

昨年に引き続き豊島区立清和小学校のコーディネーショントレーニングの指導をさせていただきました。今回は体力測定の項目にあるボール投げについて成績が向上するようなトレーニングをして欲しいとの依頼があった為、投げる動作の基礎を養うトレーニングを提案しました。全身のストレッチ、低負荷な体幹トレーニング、ラダートレーニング、子供と大人でチーム分けをしてお手玉を相手の陣地に投げ入れるトレーニング等を行いました。親御さんも一緒に参加ができるようなもので盛り上がりました。後日、保護者様へのアンケートでも「保護者チームとの対決ではさらに盛り上がり張り切っている様子が見られました」「子供たちが楽しく身体を動かしているのを見てうれしく思いました」等の嬉しいお言葉を頂けました。今後も子供たちの運動能力を向上するための一助としてサポートしていきたいと感じました。

報告者：：山田祐太朗（元気ジム大泉学園）

【活動報告】第２回研修会「スポーツ栄養学について」

【日　時】2022 年 11 月 21 日 (月)　19：00 ～ 20：30

【形　式】オンライン形式 (zoom 使用)

【講　師】清野隼先生 (管理栄養士 / 公認スポーツ栄養士)

筑波大学体育系 助教 / スマートウエルネスシティ政策開発研究センター

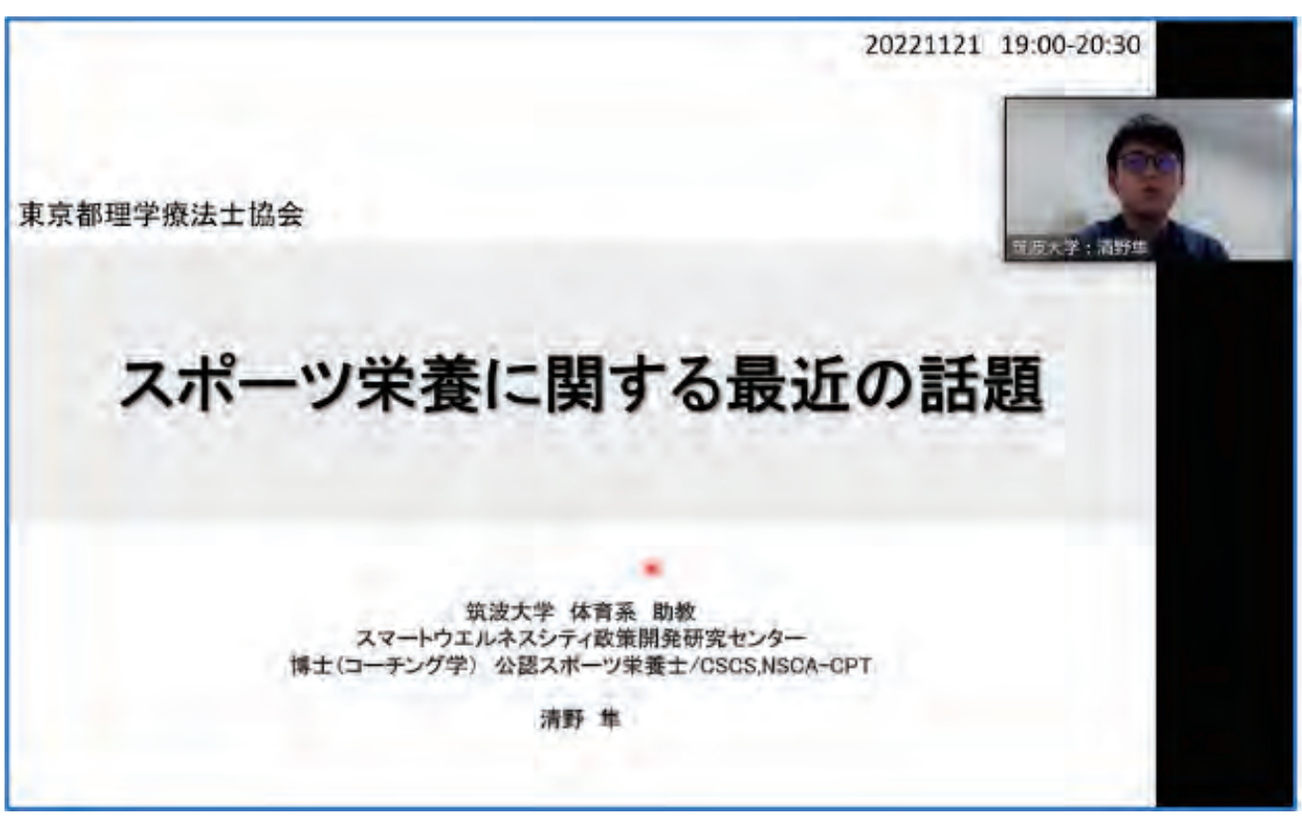
【参加者】45 名 (都士会員：38 名、都士会員以外：6 名、東京都民：1 名)

【内　容】

今回は、研修会アンケートでも特にご要望の多かった「スポーツ栄養学について」の研修会を開催し、大変多くの方にご参加いただきました。

栄養素の種類、摂取量、摂取タイミングなどの基礎的な内容から、論文や研究結果を基にした最新の考え方まで、幅広い内容でご講演いただきました。栄養管理を主体的に実行し継続する為には、習慣的に摂取している食品の栄養素や特徴などを理解するだけでなく、対象者それぞれの " 個別性 " や " バックグラウンド " を考えることが重要であり、アスリート並びに患者様に寄り添っていく中でとても大切な事であると学ばせていただきました。

明日からの現場活動だけでなく、自分自身の体調管理を改めて考える大変貴重な機会となりました。今後とも皆様のご意見を聞きながら研修会を企画開催していきます。どうぞ宜しくお願い致します。



報告者：宮川裕介 (医療法人社団 壮友会 山口医院)

【活動報告】学生向け研修会

スポーツ理学療法について理学療法士がスポーツ現場で働くためは
どのような知識が必要なのか？

日時：2022 年 12 月 13 日（火）19：00 ～ 20：00
2022 年 12 月 20 日（火）19：00 ～ 20：30

会場：オンライン研修会

対象：理学療法士養成校の学生　のべ 102 名

講師：板倉尚子先生（日本女子体育大学健康管理センター）
鈴木享之先生（長汐病院）
渡邊祐介先生（浮間中央病院）
生井真樹先生（世田谷人工関節・脊椎クリニック）
水石 裕先生（杏林大学医学部付属病院）

報告：
今回の研修会では、理学療法養成校に通う学生へ向けてスポーツ理学療法の臨床とスポーツ現場活動の内容を必要な知識は何かという題名でお伝えしました。
講師は、スポーツの臨床・現場活動の最先端を走っているスポーツ局の先生方でした。
2 日間共に充実した内容となっており、学生に向けての研修会はスポーツ局として初めての試みではありましたが、研修後のアンケートでは学校や実習では学べなかったスポーツ現場を知る事ができ、スポーツ理学療法が更に興味深いものになったとの意見を多数いただくことができました。この研修を通して、学生が都士会活動やスポーツ理学療法に興味を持っていただくきっかけになれば幸いです。

報告者：スポーツ局　国際競技大会・スポーツ理学療法推進部　日向　智 (豊島病院)

【活動報告】『スポーツ理学療法認定研修会』について

認定理学療法士 (スポーツ) 臨床認定カリキュラムに参加させて頂きましたのでご報告させて頂きます。
東京都理学療法士協会スポーツ局は日本理学療法士協会 新生涯学習制度における認定理学療法士（スポーツ）臨床認定カリキュラムの教育機関として認定された教育機関となります。
実施期間は 2023 年 01 月 07 日（土）－ 22 日（日）で web 研修会（3 日間）＋対面研修会（2 日間）の全 5 回の研修会でした。

内容は、必修・選択科目で計 23 科目あり、スポーツ理学療法の歴史から現場での実際の介入まで多岐に渡り、講師の先生方もスポーツ理学療法を牽引している方々なので、教科書の内容から現場での活用法まで毎回時間が経つのがあっと言う間の内容でした。全科目の最後には、受講生全員で実際のトレーニングを汗かき体験し、まさに座学から実技まで充実した内容を学ぶ事が出来ました。

認定理学療法士取得までには 1. 指定研修カリキュラムの受講、2. 臨床認定カリキュラムの受講 1）必須科目 2）選択科目、3. 日本理学療法学術研修大会の参加が必須で、本研修のテストを無事に合格する事が出来れば、臨床認定カリキュラムの取得となります。改めて、本研修の復習をしてテストに臨みたいと思います。

このような素晴らしい機会を頂きました東京都理学療法士協会スポーツ局の皆様をはじめ、準備・運営して下さったスタッフの皆様、素晴らしい会場をご提供して下さった日本大学の小山 貴之先生に心より感謝申し上げます。

報告者 : スポーツ局　森本孝則 (physical care room T)

会館建設検討委員会

お知らせ

委員長　　原島　宏明

ご報告

かねてより話が出ておりました、東京都理学療法士協会事務局移転のお話ですが、
令和５年１月１８日に無事、お引越しすることができました。
以前の事務局から徒歩で数分のところです。代々木駅からも徒歩４～５分
内装も、落ち着いた雰囲気で今までの事務局より広くなり、会議室も常設しておりますので、
会議なども開催可能です。

新住所
〒 151-0053
東京都渋谷区代々木 1-58-7　ヴェラハイツ代々木 201

新事務所外観

新事務所玄関

新事務所廊下

事務室

会議室１

会議室２

報告者：会館建設検討委員会　委員長　原島　宏明（総合東京病院）

機関誌編集部

お知らせ

部長　中山　雅和

■　機関誌『理学療法　東京』投稿募集のお知らせ　■

当士会では年一回、機関誌『理学療法　東京』を発行しており、投稿原稿を常時募集しています。投稿された原稿は査読者に依頼し掲載可能とみなされれば校正ののち、その時点で最も発行が近い『理学療法 東京』に掲載します。

生涯プログラムへの反映について

・新人教育プログラムは、反映されません。

・認定・専門理学療法士制度では，『3.-4) その他の査読付きリハビリテーション関連雑誌の筆頭著者 10 ポイント』に該当します。

＊ただし、内容によって専門分野での認証されない場合があります。反映される方は、発刊後に自己申請をお願い致します。

《執筆投稿規定》

1. 学術研究論文
2. 教育関係論文
3. 症例報告論文
4. 行政及び士会運営に関する論評等

【投稿者の資格】

公益社団法人東京都理学療法士協会会員に限る。但し会長が依頼した場合この限りではない。

【投稿原稿の条件】

投稿原稿は他誌に発表、または投稿中の原稿でないこと。本規定に従って作成すること。

【著作権】

本誌に搭載された論文の著作権は東京都理学療法士協会に属する。

【研究倫理】

ヘルシンキ宣言に基づき対象者の保護には十分留意し、説明と同意などの倫理的な配慮に関する記述を必ず行うこと。

【原稿の採択】

原稿の採択は複数の査読者の意見を参考に編集委員会において決定する。査読の結果、編集方針に従って原稿の修正を求めることがある。また、必要に応じて編集委員会の責任において字句の訂正を行うことがある。

【執筆規定】

1. 論文構成

1）標題（表題）：内容を具体的かつ的確に表し、できるだけ簡潔に記載する。原則として略語、略称は用いない。

2）キーワード：標題及び要旨から 3 個を抽出する。不十分な場合は本文から補充する。3）著者名、所属名

4）要旨：「目的」「方法」「結果」「結論」を含めて 400 字程度で記載する。

5）本文：下記の各部分から成り立っていることを原則とする。

① はじめに（序論、諸言、まえがき等）

② 対象および方法（症例紹介）：倫理的配慮を記述すること。

③ 結果

④ 考察

⑤ 結論（まとめ）

⑥ 文献：引用文献のみとして本文の引用順に並べる。本文の該当箇所の右肩に一連番号を付ける。引用文献の著者氏名が 3 名以上の場合、最初の 2 名を記載し、他は「・他」あるいは「et al.」とする。雑誌の場合は著者氏名、論文題目、雑誌名、巻、号、頁、西暦年号の順に記載する。単行本の場合は著者氏名、書名、編集者氏名、発行所名、発行地、年次、頁を記載する。

＜表記例＞

・藤田信子，桝田康彦・他：椅子座位における側方傾斜刺激に対する頸部・体幹・四肢の筋活動―筋電図学的分析．理学療法学 ,17:27-30,1990.

・Sepic,S.B,Murray,M.P,et al.:Strength and Range of motion in the Ankle in Two Age Groups of Men and Women.Am.J.Phys.Med,65:75-84,1986.

・真島英信，猪飼道夫：生体の運動機能とその制御 . 杏林書院 , 東京 ,1972,pp185-193.

・Junda,V.:Muscle Function Testing Butterworths,London,1983,pp224-227.

6）図表

原寸でそのまま掲載する（作図や縮小はしない）。図の番号および標題は図の下に、表の場合は表の上につける。本文と図表は分けて作成し、表・図・写真の挿入位置を本文の右欄外に指示する。

2. 原稿規定分量

原則として 400 字詰め原稿用紙 20 枚・8000 字以内とする。

3. 文字表記

原則として現代かな使い、数字は算用数字，単位は国際単位系　（SI 単位）を用いる。

4. 略語

略語は初出時にフルスペルあるいは和訳も記載する。

5. 表紙頁，著者頁

　論文には表紙頁と著者頁をつける。表紙には標題、キーワード (3 個)、本文ページ数、図表枚数、原稿文字数を記載する。著者頁には著者名、所属名、責任者連絡先（住所・電話番号・Email アドレス)を記載する。表紙頁, 著者頁の後に要旨･本文･図表を改めて記載する。

6. ページ番号・行番号

　原稿にはページ番号（最下部中央）と本文右（または左）に５行ごとに行番号を記載する。

【原稿送付方法および連絡先】

1）原稿送付先

原則として投稿原稿一式を 1 つのファイルにまとめ、電子メールに添付して下記へ送付する。上記が不可能な場合は問い合わせすること。

2）原稿送付先および連絡先

〒 189-0024　東京都小金井市中町 2-22-32

社会医学技術学院　　理学療法学科

(担当者) 中山雅和

TEL：042-384-1030

FAX：042-384-8508

E-mail：pt_tokyo_kikanshi@yahoo.co.jp

（平成 31 年 1 月 31 日　改定）

編集後記

東京都理学療法士協会会員の皆様におかれましてはいかがお過ごしでしょうか？ 225 号は 46 ページにわたる構成となりました。各部局からの掲載依頼も前年に比べて増えてきており、結果としてページ数の増加につながっていると思われます。会員の皆様にとっては東京都理学療法士協会の日頃の活動が確認できることと思います。

　また先月の 1 月 18 日に田中昌史先生が参議院義委員に繰り上げ当選されたとの一報がございました。私たち理学療法士にとっては大変良い知らせとなりました。また WPT も 2025 年、日本で開催となり、この社会情勢のなか良い知らせがございました。国家試験も終わりいよいよ年度末を迎えます。

公益社団法人 東京都理学療法士協会 正会員数

10,088 名（令和５年２月２５日現在）

（事務局 新住所）　〒 151-0053

東京都渋谷区代々木 1-58-7　ヴェラハイツ代々木 201

Tel：03-3370-9035　FAX：03-3370-9036